

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人間社会学域	人文学類	夜・通信	13		27	40	13	
	法学類	夜・通信			8	21	13	
	経済学類	夜・通信			12	25	13	
	学校教育学類	夜・通信			14	27	13	
	地域創造学類	夜・通信			18	31	13	
	国際学類	夜・通信			8	21	13	
理工学域	数物科学類	夜・通信			5	18	13	
	物質化学類	夜・通信			5	18	13	
	機械工学類	夜・通信			10	23	13	
	フロンティア工学類	夜・通信			6	29	13	
	電子情報通信学類	夜・通信			5	18	13	
	地球社会基盤学類	夜・通信			14	27	13	
	生命理工学類	夜・通信			7	20	13	
医薬保健学域	医学類	夜・通信			19	32	19	
	薬学類	夜・通信			27.5	40.5	19	

	創薬科学類	夜・通信			3	16	13	
	保健学類	夜・通信			15	28	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>
 金沢大学 Web サイト>授業案内 (Web シラバス) >開講学域を選択→「実務経験のある教員による授業」欄にチェック→検索

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

刊行物：金沢大学概要

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline>)

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学概要

大学 Web サイト：役員

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/yakuin>)

金沢大学 > 金沢大学について > 役員・組織・諸規程等 > 役員

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	独立行政法人日本学生 支援機構グローバル人 材育成本部グローバル 人材育成部長	2020年4月1 日 ～2022年3月 31日	総務・財務・施設担 当
非常勤	東北大学国際高等研究 教育機構長	2020年4月1 日 ～2022年3月 31日	産学連携・高等教育 改革担当
非常勤	株式会社小松製作所顧 問	2020年4月1 日 ～2022年3月 31日	産学連携・オープン イノベーション担 当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) <u>すべての学部等で共通</u> <u>授業計画の作成過程</u> 次年度時間割データ完成後に、主に当該授業担当教員がシステムでデータを入稿する。その際、以下の項目を入力必須とする。「授業の主題」、「授業の目標」、「学生の学習目標」、「授業の概要」、「評価の方法」、「評価の割合」、「予習・復習に関する指示」、「オフィスアワー等」。 入稿後、各学類において全項目の内容を点検したうえで、WEBにて学内外に公開している。 <u>授業計画の作成・公表時期</u> 前年度12月末にシステムで入稿可能となり、前年度2月末日に公開する(例:2019年度のシラバスは2018年度の2月末日に公開した)。	
授業計画書の公表方法	金沢大学シラバス https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx 金沢大学 > Web版シラバス(授業案内)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) <u>すべての学域等で共通</u> あらかじめシラバスで公開している「評価の方法」、「評価の割合」に示した成績評価の方法・基準により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。 なお2019年度より、上記をより詳細なものとした「科目ルーブリック」のシラバスへの掲載を試行した。今後掲載科目数を増やしていく予定である。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) すべての学域等で共通 本学履修規程第15条で以下のとおり定めている。 学期ごとに算出し、学生の成績閲覧ページに掲載している。 $GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$ 「評語：GP」＝「S：4点」「A：3点」「B：2点」「C：1点」「合：対象外」 「不可：0点」「否：対象外」「放棄：0点」 「教育の質保証」の根幹をなす厳格・公正な成績評価のため、WEB上（学内限定）で成績分布を公開し、教職員が参照できる仕組みが整っている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	金沢大学履修規程 https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/act/frame/frame110000203.htm 金沢大学 > 金沢大学について > 役員・組織・諸規程等 > 諸規程等
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) すべての学域・学類の卒業の認定に関する方針を、以下のWebで集約・公開している。 https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 卒業の認定に必要な修得単位数については、以下のWebページで集約・公開している。 http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/campus/gak/menu01.html 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 卒業要件	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金沢大学
設置者名	国立大学法人金沢大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
財産目録	—
事業報告書	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報
監事による監査報告(書)	https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukoukai/zaimu 金沢大学>金沢大学について>情報公開>財務に関する情報

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学 web サイトにおいて公表している。 (URL) https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation 金沢大学 > 金沢大学について > 大学運営・将来構想 > 自己点検評価/認証評価/その他の評価

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学 web サイトにおいて公表している。 (URL) https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation 金沢大学 > 金沢大学について > 大学運営・将来構想 > 自己点検評価/認証評価/その他の評価

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名：人間社会学域
教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにより公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/gakushi_2018.pdf 金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長
(概要) 人間及び人間社会に関する普遍的真理の探求とともに、激変する複雑な社会状況の下で、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に貢献寄与するための教育を行い、社会に貢献しうる自発的な課題探求能力や解決能力を持ち、かつ多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表 https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
(概要) 人文学類 人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問（コース・専門分野）の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成します。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者としてします。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 法学類 法律学・政治学の学問体系の骨格を理解していること、法律学・政治学の基本的な科目の知識を修得していること、卒業後の進路に応じて必要な知識を修得していること、問題を発見する力と、自分の主張をまとめて論証する力を身につけていること。以上の法学類の人材養成目標とともに、各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に、学士（法学）の学位を授与します。 経済学類 以下の 5 つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士（経済学）の学位を授与します。 1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力（外国語によるものも含む）、プレゼンテーション能力、IT 能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることでできる人間性豊かな人材を養成します。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められます。

- 1). 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。
- 2). 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。
- 3). 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。
- 4). 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。
- 5). 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。
- 6). 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。
- 7). さまざまな経済学説や理論を修得する。
- 8). 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決の為の政策立案能力を養う。
- 9). 将来、社会の一員として働くことの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。
- 10). 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。
- 11). さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を取捨選択し、有益に活用する能力を養う。
- 12). 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT 能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。

学校教育学類

義務教育学校を中心とした学校の教員に必要な、次のような知識・技能・態度を備え、教員として学校現場の課題に答えられる人材を養成します。この人材養成目標に到達した者に学士（教育学）の学位を授与します。

1. 教科等（道徳・特別活動を含む）の専門知識と、児童生徒の実態に合わせてそれらを教授するための知識・技能・創造的思考力。
 2. 児童生徒の実態を観察・理解し、コミュニケーションにもとづいて児童生徒の自主的自治的活動を支援するための知識・技能・態度。
 3. 学校教育・学校組織とそれを取り巻く現代社会と世界の諸問題についての知識・理解力・分析力。
 4. 自己の教員としての資質を省察し、個性的な教員としての自己形成を目指すための知識・技能・態度。
 5. 取得教員免許状の種類に応じた校種（小・中・特別支援・高等学校及び幼稚園）ごとの特徴的な教育内容と教育方法、および児童生徒等の理解と支援についての知識・技能。
- ・ 教科等（道徳・特別活動を含む）の内容を理解し、児童・生徒の実態に応じた教授方法を探求することができる。（教科等）
 - ・ 児童生徒への理解にもとづいてコミュニケーションを行い、自主的自治的活動を支援することができる。（子ども理解）
 - ・ 学校教育・学校組織とそれを取り巻く現代社会と世界の諸問題について、理解し判断することができる。（学校・社会）
 - ・ 自己の教員としての資質を省察し、個性的な教員としての自己形成を目指すことができる。（自己省察）
 - ・ 取得する教員免許の校種における教育内容・教育方法の特性を理解し、校種に応じた児童生徒等の理解と支援を行うことができる。（校種）

地域創造学類

1. 理念・目標

地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行います。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成します。

2. 育てる学生像（学類のディプロマ・ポリシー）

地域創造学類では、以上のような理念・目標に基づいて、以下の「学類の学習成果」を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与します。

1). 知識・理解

人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を習得している。

コース\領域	・理念目標・社会的責任:	・現状理解・把握:	・実践論・対処方法:
【福祉マネジメント】	人権の保障	福祉の歴史、制度・政策	援助技術・方法、ソーシャル・アクション
【環境共生】	持続可能な社会の実現、環境思想	食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理	GIS技術、環境学習、環境再生医
【地域プランニング】	地域活性化	コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政	地域計画、地域情報伝達
【健康スポーツ】	生涯スポーツライフ	健康・運動・栄養・体力・発達、スポーツの文化と歴史	ヘルスプロモーション、スポーツマネジメント

2). 技能・表現

- ・ 地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
- ・ 他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネート能力を身につけている。

3). 思考・判断

地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。

4). 関心・意欲

地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。

5). 態度

地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。

国際学類

グローバル化が進んだ 21 世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との〈しなやかな共生〉を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化 への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てます。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士（国際学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>）
 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（概要）

人文学類

人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築しています。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学びます。特に 3、4 年次生は進路に即した科目を学びます。

法学類

1. 体系的カリキュラム：法律学・政治学の学問体系の骨格に対する理解を促す。
2. 階層的カリキュラム：入学初年次は基礎的な科目を、学年の進行に従って応用的・発展的な科目を提供する。
3. 進路に応じたカリキュラム：1、2 年次生はおおよそ同じ基本的科目を学ばせ、3、4 年次生は将来の進路に即した科目を学ばせる。

経済学類

初年度には経済学を学ぶにあたっての基礎的なツールとなる「経済数学」や、経済学への興味関心を高めることを目的に配置した「総合講義」を履修して、2 年次以降に本格化する専門科目の履修に備えます。専門科目として開講される科目の大部分は選

択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができますが、共通フレームワークとしての位置づけを持つ科目を学類共通科目（13科目）として配置し、そこから5科目（10単位）を履修することが卒業要件となっています。

なお、2年次から経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されますが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも6科目12単位修得することが卒業要件となっています。

また、3年次から、各自が興味を持つ専門演習に配属され、専門分野をより深く探求します。演習では、研究指導を目的とした特別研究（3年次）、卒業研究（4年次）の履修が可能です。

学校教育学類

1. 教員養成課程であるため、教職員免許法に定める免許状の取得要件を基盤に、カリキュラムを構成します。すなわち、
 - 教育学コース教育基礎専修においては、小学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状（教科は任意）
 - 教育学コース特別支援教育専修においては、小学校教諭一種免許状および特別支援学校教諭一種免許状
 - 教科教育コース各専修においては、小学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状（教科は所属専修の教科）の取得要件を必修とし、高等学校・幼稚園の免許科目は選択科目として配置する。
2. 全学生必修の小学校免許関連科目と、教員として必要な一般的な知識・技能を修得する科目を学類共通科目として主に1年次から2年次に配置します。中学校免許取得のための科目、および教育学の二つの専修の基礎的な科目を、「専修基礎科目」（必修科目）としておもに2年次・3年次に配置し、専修の専門知識を深め、教育現場での応用力を高めるための「専修専門科目」（必修を含む）を主に3年次から4年次に配置し、幼稚園免許のための選択科目は4年次を中心に配置します。

地域創造学類

必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成します。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視します。

1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学びます。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学びます。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっています。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されています。

国際学類

必修科目（「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」）、専門基礎選択必修科目（国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位）、専門選択必修科目（24単位必修）、選択科目（「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位）など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学Webサイトにより公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/admission>)

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

(概要)

人文学類

人文学類では、人間をその行動、思想、歴史、文化、言語、文学といった多彩な観点から考察し深く学ぶことを通じて、人間性と社会性に富む教養と課題発見能力、社会的応用性を備えた専門的知識、的確な自己表現の能力、そして多面的視野と柔軟なコミュニケーション能力を持った人材の育成を目指しています。

法学類

国内外の社会状況が大きく変化している現代において、法と政治に関する基本的な理念や知識は、個々人が他者と共生していくために不可欠なものとなっています。法学類では、このような認識に基づき、法学・政治学を体系的に学ぶことを通じて、現代社会が抱える諸問題を発見し、将来的課題に取り組む能力を有した人材を養成することを目標としています。

経済学類

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、高校の専門教育を主とする学科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする推薦入試、および帰国子女入試・国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。

学校教育学類

激しく変動するグローバル社会の中で、これからの学校教育における新たな学びを支える教師には、教科や教職に関する専門的な知識および実践的指導力に加え、絶えず自律的に学び続け、学校を取り巻く現代社会の変化や諸問題を的確に把握し、使命感を持って課題解決にあたる姿勢が求められます。また、様々な社会的背景を持った多様な子どもたちに向き合い、より深く、共感的に理解しつつ、子どもの発達等に関する専門的知見を踏まえながら、一人一人の子どもたちのニーズに応じた対応が求められます。

学校教育学類は、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に養成することを主たる目標としており、専門職としての教師への熱意にあふれ、かつ地域における文化の形成に寄与する人材を求めます。

学校教育学類には、教育科学コースと教科教育学コースのもと、教育基礎、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育の11の専修があります。各専修への所属は2年進級時に、本人の希望、適性等を総合的に考慮したうえで決定します。

地域創造学類

地域創造学類は、地域の自然的・文化的資源、伝統、人材、資金、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、住民の健康・福祉・環境・産業・文化・観光を発展させるとともに、新たな価値創出によって地域を再生し活性化するため、質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。

地域創造学類には福祉マネジメント、環境共生、地域プランニング、観光学・文化継承の4つのコースがあります。推薦入試以外の学生は、2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮して各コースに所属します。

国際学類

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外のNPO、NGOで経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わり

たい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感力、国際的な場におけるコミュニケーションに必要な外国語運用能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

国際学類には国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパの5つのコースがあり、また、国際社会、米英の両コースには英語だけで卒業できる英語プログラムもあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

学部等名 理工学域

教育研究上の目的（公表方法：Webサイトにより公表

https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/gakushi_2018.pdf)

金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長

（概要）基礎科学と工学の先進的な研究を通して理工学の高度な専門知識を育み、高い倫理性と豊かな教養を備え、課題探求能力と国際感覚をもって自然環境と調和のとれた科学と技術の発展を目指し、人類の幸福のため世界で活躍する個性輝く人材を養成することを目的とする。
--

卒業の認定に関する方針（公表方法：Webサイトにより公表

https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma)

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー>学位授与方針（ディプロマポリシー）

（概要）

数物科学類

急速な発展を遂げつつある新しい数学、物理学と関連諸分野の発展に貢献できる人材を育成するとともに、論理的思考能力をもって物事を根本から考え、社会の様々な分野において未知の問題に果敢に挑戦できる人材を育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に、学士（理学）の学位を授与する。

物質化学類

化学の専門知識・技術とともに幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献できる人材を養成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士（理学）もしくは学士（工学）の学位を授与する。

機械工学類

産業技術の基盤となる機械工学分野の基礎学力と高度な専門知識を身につけ、自然や人間・社会との調和を図りつつ、モノづくり工学の持つ社会的使命と責任を果たす、工業・産業の広い分野で活躍できる機械技術者・研究開発者を養成する。学類の人材養成目標に到達するために、各コースにおいて所定の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与する。

フロンティア工学類

本学類ではコース制は採用せず、学生は工学の専門分野の基礎を学ぶ4つのコアプログラムと、工学の異分野融合領域を学ぶ6つのフロンティアプログラムを組み合わせる。その課程において、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

電子情報通信学類

金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に基づいた人材育成を行う上で、電気電子技術（EET）と情報通信技術（ICT）に関する専門知識を修め、技術者に必要な倫理観と地球的視点をもった、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会の創造に貢献できる自立した技術者・研究者を養成する。金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）及び
--

本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

地球社会基盤学類

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、地球惑星科学コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（理学）の学位を授与する。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、土木防災コース及び環境都市コースが掲げる学修成果を達成した者に、学士（工学）の学位を授与する。

生命理工学類

生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的の実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士（工学もしくは理学）の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Webサイトにより公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>

金沢大学＞教育＞教育情報＞各種ポリシー＞学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（概要）

数物科学類

初年度に履修する「微分積分学」と「線形代数学」を出発点とし、「集合と位相」、「群論・環論・体論」、「曲線論・曲面論・多様体論」や「実解析学・複素解析学・関数解析学・確率解析学」など、代数学・幾何学・解析学の専門分野について、純粋な数学的内容からそれらの応用までを体系的に学ぶ。最終学年では、少人数からなるいくつかのグループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「数学課題研究」において、より深く探求する。なお、専門分野で開講される科目の大部分は選択科目であり、各自の興味に応じて自主的に履修計画を作成することができる。

物質化学類

化学の専門的職業人として必要な自然科学の素養として「基礎学力（目標A）」を養う基礎科目群とともに、現代化学全般を体系的に習得する中で「化学的な研究能力と問題解決力（目標B）」を養う専門科目群を配置した。また、「情報発信型人材育成（目標C）」を目標として、ゼミナールや課題研究を中心としたプレゼンテーション能力及び国際コミュニケーション能力を養成する科目群を編成した。

機械工学類

機械工学分野の技術者として基礎となる科目について体系的に学び、その上でさらなる技術の高度化や人間・自然・社会との調和に対応できる機械工学の専門的能力を身につけられるよう科目を配置した。さらに、技術者としての実践能力を高めるための実験・実習科目と、自主性・創造性・協調性やプレゼンテーション能力、課題探求能等を養成するための専門総合科目を4年間を通して開講するようにカリキュラムを編成した。

フロンティア工学類

近未来社会を先端科学技術で切り拓く人材を育成するために、工学の未踏領域（フロンティア）を分野境界の融合及び分野統合により開拓する素養を身につけるためのカリキュラムを編成した。コース制は採用せず、学生は履修科目を組み合わせた「プログラ

ム」を、自身のキャリア設計に基づいて複数修得する。

電子情報通信学類

IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学分野において第4次産業革命及び超スマート社会を担う技術者、研究者やデータサイエンティストを養成するために、導入として専門知識の習得に必要な数理情報や自然科学などの基礎的な科目を専門基礎科目群として配置した。次に専門知識と理論の理解、そして実践的な技術の習得のために、IoT、人工知能、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワークなどに関する情報通信工学の専門科目として学類共通科目（専門）群とコース科目（情報通信）群を、及び、各分野に則した実験・演習科目として実践科目群を配置した。そして、それに続くより高度な実験・演習科目と課題研究として実践科目と総合科目を配置することで、問題発見・解決能力を身につけることができるように編成した。

地球社会基盤学類

本コースでは、学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、「地球や惑星を構成する物質やその循環」、「地球環境の変遷と生命の歴史」、「地震や火山などの地球・惑星内部や表層のダイナミクス」を理解するために必要となる幅広い専門基礎学力の涵養と多様な実験・分析方法、情報処理能力や調査の技能の習得を学習目標として、教育課程を編成し実施する。

生命理工学類

分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し利活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Webサイトにより公表）

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/admission>

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（概要）

数物科学類

科学の基礎分野における問題意識や基本原理を学び、様々な数理・自然現象を説明することができること、最先端の研究開発に応用可能な技術や問題解決能力を身につけること、コミュニケーション能力や表現能力、種々の自然現象を数学・物理の原理に基づいて分析し計算機の助けを借りて解析し、自ら課題を発見して論理的考察を行い、科学的実証により問題を解決することを重視します。

物質化学類

化学を通じて人類が自然と共生しながら持続的に豊かに生きるための科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献し、社会のグローバル化を積極的に担える理学及び工学的素養を身につけた人材の育成を目標としており、“独自に考える力”と“未知の分野に対する強い探究心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待します。

機械工学類

物理学・数学を駆使し、原子・分子レベルから、巨大構造までを対象とした最適設計法、超精密加工技術、新素材の開発など、未知の領域に挑む分野から、環境に配慮した新エネルギーやエンジンの開発など、自然の保護と持続に貢献する分野まで、広く興味を持つ人材の入学を期待します。

フロンティア工学類

ロボティクス、航空宇宙工学、高度センシング技術、ナノテクノロジー、新機能性材料など技術革命をもたらす先進的な分野から、医療福祉工学、生活支援機器、化学製品など生活や社会の調和と発展をささえる分野まで、広く興味を持つ人材を受け入れます。

電子情報通信学類

電気エネルギー創成・変換、ナノテクノロジー、光・電子デバイス、宇宙探査、セキュリティ、人工知能、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、クラウドコンピューティングなどに興味がある人材の入学を期待しています。

地球社会基盤学類

地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識に基づく総合的・実践的な教育・研究を行い、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成します。科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待します。

生命理工学類

生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成します。本学類では、新分野を切り開く学術的探究心に富み、理学と工学の専門知識を活かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待します。

学部等名：医薬保健学域
教育研究上の目的（公表方法：Web サイト https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/gakushi_2018.pdf ） 金沢大学 > 学域・学類・大学院等 > 学域学類制の特長
（概要） 高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質[Quality of Life(QOL)]を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：Webサイト https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma ） 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー>学位授与方針（ディプロマポリシー）
（概要） 医学類 医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。 A. 知識及び技能 ・基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。 ・臨床医学領域について専門的な知識を身につける。

- ・ 診断及び治療の基本的技能を修得する。
- ・ 自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。
- B. 研究心
 - ・ 科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。
 - ・ 探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。
 - ・ 科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。
- C. 倫理観
 - ・ 患者の自己決定権の重要性を理解する。
 - ・ 自分自身の行動を省察し律することができる。
 - ・ 医師としての社会的責任を理解する。
 - ・ 価値観の多様性を理解する。
 - ・ 幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。
- D. 地域医療
 - ・ 地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。
 - ・ 医療の経済的側面を理解する。
- E. コミュニケーション
 - ・ 患者・家族等と良好な関係を築く。
 - ・ 他の医療従事者との連携を重視する。
 - ・ 強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。
- F. 危険・事故の予防
 - ・ 医療従事者の健康管理の重要性を理解している。
 - ・ 医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。
 - ・ 医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。

薬学類

KUGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（薬学）の学位を授与する。

○学修成果

- ①倫理・使命・責任を自覚する。
 - ・ 医療人としての使命と責務を理解する。
 - ・ 高い倫理観をもつ。
- ②薬の専門家としての基本的能力をもつ。
 - ・ 基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。
 - ・ 健康と疾病に関わる基礎知識を身につける。
 - ・ 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。
 - ・ 臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。
- ③専門性を活かした応用力をもつ。
 - ・ 主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。
 - ・ 専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。
 - ・ 抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。
- ④論理的な思考力と表現能力をもつ。
 - ・ 国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。
 - ・ 自身の考えを明確にまとめることができる。
 - ・ 他者と論理的に議論することができる。

創薬科学類

KUGS 及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士（創薬科学）の学位を授与する。

○学修成果

①倫理・使命・責任を自覚する。

- ・生命科学領域の研究者としての責任感をもつ。
- ・高い倫理観をもつ。

②薬の専門家としての基本的能力をもつ。

- ・基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。
- ・創薬科学各分野の基礎的な知識と技能を身につける。
- ・問題解決に必要な基礎的能力をもつ。

③専門性を活かした応用力をもつ。

- ・主体的な自己研鑽により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。
- ・専門的知識を活用し、生命薬学・生命科学領域の未解決な問題を抽出することができる。
- ・抽出された生命薬学・生命科学領域の未解決な問題を解決する意欲をもつ。

④論理的な思考力と表現能力をもつ。

- ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。
- ・自身の考えを明確にまとめることができる。
- ・他者と論理的に議論することができる。

保健学類

保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成します。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与します。

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。
4. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
5. 幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。
6. 英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。

以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/curriculum>）

金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学習成果、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（概要）

医学類

初年度に行う「早期臨床体験」により、医学類に入学した学生に対して、6年間の勉学の目標を見極めさせる。その上で2年次以降、基礎医学と臨床医学を関連づけて 学べるような統合的カリキュラムを編成する。少人数で行う実習やチュートリアル教育をとりいれ、課題探求型の自己学習を指導する。

学習成果

A. 知識及び技能 ・基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。

- ・臨床医学領域について専門的な知識を身につける。 ・診断及び治療の基本的技能を修得する。
- ・自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。
- B. 研究心 ・科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。
 - ・探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。
 - ・科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。
- C. 倫理観 ・患者の自己決定権の重要性を理解する。
 - ・自分自身の行動を省察し律することができる。
 - ・医師としての社会的責任を理解する。
 - ・価値観の多様性を理解する。
 - ・幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。
- D. 地域医療 ・地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。
 - ・医療の経済的側面を理解する。
- E. コミュニケーション ・患者・家族等と良好な関係を築く。
 - ・他の医療従事者との連携を重視する。
 - ・強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。
- F. 危険・事故の予防 ・医療従事者の健康管理の重要性を理解している。
 - ・医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。
 - ・医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。

薬学類

薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

①体系的・階層的なカリキュラム：薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を理解するため、入学後3年前期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。

②進路に応じたカリキュラム：一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いずれかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修し、共用試験に合格した後、実務実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、配属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵養する。

○評価方法

倫理・使命・責任の自覚、および、薬の専門家としての基本的能力の評価は、平常評価と期末評価を総合して評価する。平常評価は、小テスト、レポート、演習での発表等で行う。期末評価は、期末試験、期末レポート等で行う。

専門性を活かした応用力、および、論理的な思考力と表現能力の評価は、研究発表で行う。

創薬科学類

創薬科学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。

①体系的・階層的なカリキュラム：薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を理解するため、入学後3年前期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の他に薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。

②進路に応じたカリキュラム：一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いずれかへの配属がなされる。3年後期からは創薬科学類に固有の専門

教育科目を学ぶとともに、希望する複数の研究室を回って最先端の研究課題に向き合う体験学修に基づいて、卒業研究を行う配属研究室を決定する。卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵養する。

○評価方法

倫理・使命・責任の自覚、および、薬の専門家としての基本的能力の評価は、平常評価と期末評価を総合して評価する。平常評価は、小テスト、レポート、演習での発表等で行う。期末評価は、期末試験、期末レポート等で行う。

専門性を活かした応用力、および、論理的な思考力と表現能力の評価は、研究発表で行う。

保健学類

看護学専攻では看護師・保健師の統合カリキュラムに沿った教科目を構成しています。第1に看護の基盤を理解することから生涯学習への主体的姿勢の習得まで5つの目標からカリキュラムの主軸を構成しています。第2に各目標の達成ができるための20の要点（具体的学習内容）を提示しています。第3に学習内容の基礎から応用へ、理解から実践へと年次的に深化する教科目の配置と教育方法を工夫し学生が主体的に学習できるように支援します。

放射線技術科学専攻では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養います。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成します。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養います。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指します。

検査技術科学専攻では初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし、「医療工学・情報科学」、「臨床病態学」、「形態検査学」、「生物化学分析検査学」、「病因・生体防御検査学」、「生理機能検査学」、「検査総合管理学」の専門科目について、基礎からそれらの応用までを体系的に学びます。第三学年からは、少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において、より深く探求します。また、最終学年では臨地実習を経験し、臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高めます。なお、専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目ですが、各自の希望に応じて他専攻の科目、医療英語について自主的に履修計画を作成することができます。

理学療法学専攻では共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成しています。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げています。

作業療法学専攻では作業療法士は人と接する職業であるため、幅広い教養と知識を身につけることが大切です。保健・医療の領域で活動を行うために、医学の基礎知識の修得が重要です。専門基礎科目として、解剖・生理学、運動学などを学び、その後に臨床医学へと結びつけていきます。学生は学内だけの講義・実習に加えて、リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて、作業療法専門科目が多くなりますが、学外での評価学実習を組み入れて、学内で学んだ知識と技術を、臨床を通して確認しながら進めていきます。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得します。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し、作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにより公表
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/admission>）
金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（概要）

医学類

医学類は、従来の医学部医学科に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得ることになります。

その上で、医学類では、社会の変化に適応しつつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェッショナルな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れます。

求める人材

明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行います。

なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本語で行われる関係上、相応の日本語能力を求めます。

薬学類

一般入試においては薬学類・創薬科学類を一括して募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学修を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入している。AO入試においては、両学類を区別して募集し、大学院までの一貫した教育を導入している。

求める人材

- ・国内外の大学・研究機関において、医療の進歩につながる基礎・応用研究を行い、次世代を担う人材を育成する薬学教育・研究者を志す者
- ・高度な専門性を活かし、人類の健康増進や医薬品等の適正使用、創製を通じて社会に貢献することを志す者
- ・先進的医療や薬剤師教育に主体的に取り組む医療従事者や、衛生行政従事者を志す者

創薬科学類

一般入試においては薬学類・創薬科学類を一括して募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学修を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入している。AO入試においては、両学類を区別して募集し、大学院までの一貫した教育を導入している。

求める人材

- ・国内外の大学・研究機関において、医療の進歩につながる基礎・応用研究を行い、次世代を担う人材を育成する薬学教育・研究者を志す者
- ・製薬企業等の研究所において、病気で苦しむ世界中の人々を救う医薬品等の創製に携わることを志す者
- ・人類の健康維持増進に取り組む国内外の衛生行政機関等において、主導的役割を果たすことを志す者

保健学類

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

看護学専攻

看護科学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問です。看護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習します。さらに、学内及び学外の医療、保健及び福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、看護師、※保健師の国家試験受験資格を取得することができます。

※保健師課程については、平成26年度入学生から選択制としています。詳細は随時金沢大学（医薬保健学域保健学類）Webサイトなどに掲載していきますので、保健師を希望している方は確認してください。

放射線技術科学専攻

放射線技術科学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問です。診療放射線技師となるために必要な専門技術を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養います。また、研究室配属を通じて、将来の放射線技術科学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができます。

理学療法学専攻

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などに損傷や障がいを経験した人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻では、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成します。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

作業療法学専攻

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度をもつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立ちたい人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

○求める人材

看護学専攻

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人

放射線技術科学専攻

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人

検査技術科学専攻

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

理学療法学専攻

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

作業療法学専攻

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人
- ・高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語について十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。
- ・理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学 Web サイトにより公表

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouthoukoukai/kyoiku>

金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	9 人	－					9 人
人間社会学域 （教員養成以外）	－	78 人	53 人	14 人	5 人	2 人	152 人
人間社会学域 （教員養成）	－	29 人	23 人	1 人	0 人	0 人	53 人
理工学域	－	94 人	83 人	7 人	58 人	1 人	243 人
医薬保健学域 （医学系）	－	33 人	33 人	10 人	44 人	0 人	120 人
医薬保健学域 （薬学系 6 年）	－	8 人	8 人	0 人	13 人	0 人	29 人
医薬保健学域 （薬学系 4 年）	－	3 人	6 人	0 人	6 人	0 人	15 人
医薬保健学域 （その他）	－	31 人	21 人	0 人	33 人	0 人	85 人
教養部 （一般教育）	－	13 人	23 人	3 人	11 人	0 人	50 人
大学院	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
附属病院	－	3 人	10 人	32 人	79 人	0 人	124 人
附置研究所	－	27 人	17 人	0 人	29 人	0 人	73 人
その他	－	28 人	21 人	1 人	26 人	0 人	76 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		647 人					647 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://ridb.kanazawa-u.ac.jp/public/ 金沢大学 ＞ 研究者情報					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/fd 金沢大学 ＞ 教育 ＞ 教育情報 ＞ 金沢大学 F D 活動報告書							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間社会学域	725 人	681 人	93.9%	2,945 人	3,141 人	106%	10 人	8 人
理工学域	614 人	564 人	91.9%	2,511 人	2,591 人	103%	40 人	45 人
医薬保健学域 医学類（6 年 生）	112 人	111 人	99.1%	697 人	712 人	102%	5 人	5 人
医薬保健学域 薬学類・創薬 科学類（経過	—	78 人	—	—	217 人	—	—	— 人

選択による一括入試)								
医薬保健学域 薬学類（6年生）	35人	3人	8.6%	210人	115人	55%		人
医薬保健学域 創薬科学類 （4年制）	40人	2人	5.0%	160人	48人	30%		人
医薬保健学域 保健学類	200人	198人	99.0%	860人	829人	96%	30人	13人
総合教育部 （国際基幹教育院）	-	144人	-	-	146人	-		人
合計	1,726人	1,781人	103.2%	7,383人	7,799人	106%	85人	71人
（備考）								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人間社会学域	754人 （100%）	33人 （4.4%）	625人 （82.9%）	96人 （12.7%）
理工学域	621人 （100%）	413人 （66.5%）	183人 （29.5%）	25人 （4.0%）
医薬保健学域	403人 （100%）	80人 （19.9%）	191人 （47.4%）	132人 （32.7%）
合計	1,778人 （100%）	526人 （29.6%）	999人 （56.2%）	253人 （14.2%）
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）金沢大学大学院、名古屋大学大学院、東京工業大学大学院、東京海上日動火災保険、NTT ドコモ、小松製作所、YKK、双日、総務省、金沢大学附属病院 等				
（備考）				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 次年度時間割データ完成後に、主に当該授業担当教員がシステムでデータを入稿する。その際、以下の項目を入力必須とする。「授業の主題」、「授業の目標」、「学生の学習目標」、「授業の概要」、「評価の方法」、「評価の割合」、「予習・復習に関する指示」、「オフィスアワー等」。 入稿後、各学類において全項目の内容を点検したうえで、WEBにて学内外に公開している。 <u>授業計画の作成・公表時期</u> 前年度12月末にシステムで入稿可能となり、前年度2月末日に公開する（例：2019年度のシラバスは2018年度の2月末日に公開した）。 金沢大学シラバス https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx 金沢大学 > Web版シラバス（授業案内）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) <u>すべての学部等で共通</u> 以下のルールで学期ごとにGPAを算出し、学生の成績閲覧ページに掲載している。 $GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$ 「評語：GP」＝「S：4点」「A：3点」「B：2点」「C：1点」「合：対象外」 「不可：0点」「否：対象外」「放棄：0点」 また、すべての学部の「①卒業の認定に関する方針」及び「②必要な修得単位数」を、以下のWebページで集約・公開している。 ①https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/policy/diploma 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 各種ポリシー > 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） ②http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/campus/gak/menu01.html 金沢大学 > 教育 > 教育情報 > 卒業要件				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
②のとおり		単位	有・無	単位

		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

- ・「金沢大学概要」

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/outline>

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学概要

- ・金沢大学大学案内

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/daigakuannai>

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > 大学案内

- ・データで見る金沢大学

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/data>

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > データパンフ

- ・金沢大学キャンパス見どころガイド

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/prstrategy/publication/navi>

金沢大学 > 金沢大学について > 広報活動 > 広報誌／刊行物 > キャンパス見どころガイド

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科	535,800 円	282,000 円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukougai/gyomu/payment>

金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 業務に関する情報 > 学生納付金等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 奨学金については、日本学生支援機構奨学金、民間奨学団体及び地方公共団体を扱っている。また、修学支援新制度の対象外となる学生の授業料減免や入学科について全額又は半額免除する制度を設けている。 健康管理支援のため、本学に保健管理センターを設置している。各地区の在学者に対応するため、分室を設け健康管理を行うとともにメンタルヘルスに関する相談にも対応している。 生活支援のため、福利厚生施設を各キャンパスに設け、食事の提供や教育に必要な雑貨の販売を実施している。 住環境支援のため本学には学生寮2棟と学生寄宿舍を設置している。学生寮は、金沢市内に鉄筋コンクリート4階建の男子寮と女子寮で、合わせて308人が入居可能である。学生留学生宿舎は、角間地区キャンパス内にあり、日本人学生と外国人留学生が共同生活するシェアハウス型の学生寄宿舍となっている。 健康管理 http://hsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/ 金沢大学 > 附属施設 > その他の附属施設等 生活支援 http://www.kindai-coop.jp/shop/index.html 金沢大学 > 学生生活 > 生活支援 学生寮・学生寄宿舍 URL：https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/livelihood/residence 金沢大学 > 学生生活 > 生活支援 > 住居（学生寄宿舍）	b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 各学域では、アドバイス教員制度を設けて進路指導を実施し、大学院への進学指導を行うとともに、就職指導室とアドバイス教員、就職指導教員等が連携して就職指導・相談にあたっている。 就職支援室では、就職活動にタイムリーに対応した就職ガイダンス等の開催をはじめ、求人情報やOB・OG情報の提供、就職関連書籍の貸出、就職相談員による就職相談・エントリーシートの添削・面接練習を行い、学生が主体的に就職活動及び進路選択ができるよう支援している。
--	--

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、すべての学生が、いかなる差異、いかなる困難にもかかわらず、できる限り等しい条件の下で教育の果実に与ることができるよう、経済的支援、自律的生活の支援、社会的責任の自覚の涵養などを含めた包括的な学生支援を行うことを目的とし、平成29年度に「金沢大学 KUGS サポートネットワーク」を設置した。 「金沢大学 KUGS サポートネットワーク」では、各部局、相談窓口及び支援組織が連携し、学修支援、キャリア形成支援、ヘルスケア支援、障がい学生支援、性的マイノリティ支援等の各種支援を行う。 気軽に学生が相談できるように学生ボランティア及び教員が対応にあたる「なんでも相談室」や保健管理センターのカウンセラーの相談を受けられる体制を整備している。 URL : https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/consultation 金沢大学 > 学生生活 > 学生相談窓口

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ
https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyohoukoukai/kyoiku
金沢大学 > 金沢大学について > 情報公開 > 教育に関する情報

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。